

令和4年度(第18回) 春の全国中学生ハンドボール選手権大会

女子 決勝

令和5年3月29日(水)

於:氷見市ふれあいスポーツセンター

A	鶴城(熊本)	対	B	東久留米西(東京)
---	--------	---	---	-----------

19	12	前半	10	20
	7	後半	10	

第18回春の全国中学生ハンドボール選手権大会の頂点を決める戦いは、前回大会で決勝戦に惜しくも進めなかったチーム同士となった。前回大会の雪辱を果たすべく、質の高い連動する堅い守りと素早い速攻で勝ち進んできた熊本県代表の宇土市立鶴城中学校と高いポテンシャルを最大限に生かす個々の状況判断で組織されたディフェンスで勝ち進んできた東京都代表の東久留米市立西中学校との戦いは鶴城中学校のスローオフで幕を開けた。

日本一を決める戦いは、両チームの持ち味である堅いディフェンスでロースコアの展開となった。東久留米西13番山田のサイドシュートで1点目を取ると、鶴城は得意の速攻で3番中川が取り返す。前半10分間で6対5と一進一退の試合展開になる。前半11分に東久留米西3番茂木が退場となるが、粘りのディフェンスから東久留米西10番佐藤のカットインプレーで同点とする。しかし、退場の有利を生かして鶴城6番三浦のカットインプレーで突き放す。東久留米西7番物井の速攻で得点すると、鶴城3番中川のロングシュートで取り返す。前半18分に鶴城7番高山の7mスローを東久留米西12番峯村が阻止。東久留米西に流れがいきそうなところを、鶴城が堅い守りで3分間無得点に抑える。その粘りから鶴城6番三浦のカットインプレーで前半初めて3点差とした。しかし、東久留米西12番峯村のナイスセービングから、東久留米西7番物井サイドシュート・速攻と2連続得点で追い上げる。お互いの良さをぶつけ合い、取ったら取り返す一進一退の緊張感のある白熱した試合展開で前半を終えた。

後半は東久留米西3番茂木のロングシュートを鶴城1番高田のナイスセービングで阻止してスタートした。まげじと東久留米西12番峯村がサイドシュートを2本連続阻止する。後半開始3分間は両ゴールキーパーが全てセービングする守りの展開となった。後半4分に東久留米西10番佐藤のピボットシュートで均衡を破ると、東久留米西3番茂木の速攻、鶴城7番高山のカットインシュート・速攻で1分間に両チーム2得点ずつあげるハイペースになる。後半9分に東久留米西3番茂木の力強いカットインプレーで鶴城2番内山が退場になるが、鶴城1番高田が7mスローをファインセーブ。エンプティオフenseを活用して7番高山のサイドシュートで流れを渡さない。後半16分に鶴城7番高山の7mスローを東久留米西12番峯村が阻止。その勢いのまま2番普久原のロングシュート、7番物井のカットインシュートで後半18分に17対17と同点に追いついた。流れを変えるべく鶴城のタイムアウト。タイムアウト明けで鶴城8番八木のサイドシュートを確実に決めた。後半21分に東久留米西3番茂木のロングシュートでこの試合初めて東久留米西がリードを奪った。しかし、すかさず鶴城2番内山のピボットシュートで同点に追いつく。後半23分に東久留米西3番茂木の速攻でリードを取り戻す。たまたま鶴城がタイムアウト。タイムアウト明けからは両チームのゴールキーパーを中心とした堅いディフェンスで無得点に抑え、20対19で東京都代表東久留米市立西中学校が春の栄冠を勝ち取った。

昨年の悔しさをバネに闘った両チームの試合は、ゴールキーパーを中心とした持ち味の違う堅いディフェンスを中心に3点差以上離れない一進一退の攻防で観る人を感動させる好ゲームで第18回春の全国中学生ハンドボール選手権は幕を閉じた。

記入者氏名 稲積 翔平